

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	施設の基本的な理念を作り、職員全体が理念に基づいた支援を行っている。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を玄関の目立つ場所に掲示し、会議等の機会を活用し、理念を掘り下げて、全職員で話し合い、具体的なケアについて、意思の統一を図るようにしている。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切に理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	家族に理解してもらえるよう行事や家族会の時などに機会を設け取り組んでいるが、地域の方々には、まだ完全に浸透していない。		もっと、施設自体を地域に開放するなどして、理念等を、理解して頂けるよう、取り組んでいきたい。
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	町内会に入会し地域の行事などに参加することで交流を深めている。また特定の利用者ではあるが、毎日散歩に出られる方と職員と一緒に、近所の方と挨拶をしたり、声を掛け合ったりの付き合いが出来ている。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域や保育園の行事は回覧板や運営推進会議等を通じて、情報を集め、積極的に参加している。また、地域の人を招いての夏祭りを行うなど、地元の人々との交流が出来るよう努めている。		地域の清掃活動等、事業所の職員として参加できるよう、活動の場を広げていきたい。
6	利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	運営推進会議の場において地域の方と、地域の福祉について話し合いをしている。またいつでも地域の方から福祉に関する相談を受け付けるようにしているが、まだそういった相談窓口があることが地域に浸透していない。		福祉に関する相談を常時受け付けていることを、運営推進会議や回覧板等を通じて地域に広めていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	毎年実施している評価を活かして、改善に取り組んでいるが、全職員に評価の意義の理解が出来ていない。		全職員で改善の取り組みを行い、サービスの向上に努める。
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、その意見をサービス向上に活かしている	家族代表の参加者から、検討事項やサービスに対しての意見や思いを発表して頂き、サービスの向上に活かしている。		会議で出た意見等が全職員に伝わるよう、伝達の工夫に取り組みたい。
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	常に市町村担当者と連絡を取り、アドバイスを頂いたり、問題発生時には素早い対応が出来るように連携しサービスの向上に努めている。また、生活保護受給者に関しては、保護課のケースワーカーとも連絡を取り合っている。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	成年後見制度については、勉強会の機会を活用し、全職員が学ぶことが出来たが、必要時に支援出来る体制が万全とはいえない。		制度等を実際に活用する場合に備えて、随時、職員に説明、アドバイスをを行いながら、支援へ結び付けていきたい。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会議や勉強会等で高齢者虐待防止に関する取り組みを行っている。		高齢者虐待防止関連法について、より正しく理解できるように、学ぶ機会を増やし、支援へ結び付けていきたい。
4. 理念を実践するための体制				
12	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間をとって、丁寧に説明を行っている。特に、利用料金やリスク、重度化や看取りについての対応方針、医療連携体制の実際などについては、詳しく説明し、同意を得るようにしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約書に苦情受付窓口を明記し、施設内には苦情受付箱を設置している。利用者から意見、不満等の訴えがあった場合は、記録に残し、全職員で対応を検討するようにしている。また、ご家族からの代弁も聞き取るようにしている。		
14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の暮らしぶりや健康状態については、定期的に電話連絡を行ったり、面会時に随時、報告を行っている。急な事故、病気の際は、電話連絡を行い、その後経過についても連絡するようにしている。また、施設設りを通して暮らしぶりの報告を行っている。金銭管理については、毎月通帳のコピーと領収書を送付し、確認していただいている。		
15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約書に苦情受付窓口を明記し、施設内には苦情受付箱を設置、運営推進会議に家族代表として参加して頂き、意見等を表せる機会を設けている。また、面会時には必ず、職員と話す時間をとり、率直な意見を聞き取り、運営に反映させている。		あまり意見等を言われる家族が少ないので、より多くの意見を出して頂けるような機会を設けたい。
16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング時や、個人的に、意見や提案を聞く機会を設けまた、職員が意見や提案がしやすい場を作り提供するようにし、反映させている。		
17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	必要な時間帯について職員の確保等は、話し合いながら努めている。管理者や主任が毎朝の申し送り時にその日の業務がスムーズに遂行出来るように体制について職員に説明を行っている。		
18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	基本的に年に2回の異動を行っているが、普段からユニット間でも職員と利用者の交流を行い馴染みの関係を築くようにしている、また出来るだけ離職者を出さないように職員へのケアもやっている。		
5. 人材の育成と支援				
19	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮し生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証	職員が持つ能力を重視し採用、配置を行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
20	人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	入居者に対する人権を尊重する為に、日々、職員等に対する、人権教育を日常業務の中で指導し、取り組んでいる。		
21	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部での研修、勉強会に加えて外部での研修、講習会に参加しスキルアップの機会を設けている。		外部研修に関しては一般職員の参加がまだ少ないので、その機会を増やしていきたい。
22	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	事業者交流会などに参加し、意見の交換等を行っている。また22年度より事業者協議会にも入会を予定している。		
23	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	日ごろより、職員とのコミュニケーションを図り、状態を把握しストレス防止に努めている。また定期的な親睦会も実施している。		
24	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員一人一人の特性、長所を見出し、適切な配置を行っている。また研修への参加や資格取得の支援も行っている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
25	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	事前面談にて生活状態を把握するよう努め、ご本人の求めていることや、不安を理解するよう工夫している。本人に合った心身の状態や本人の思いに向き合い、職員が本人に受け入れられるような関係作りに努めている。		
26	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	これまでの家族の苦勞や、今までのサービスの利用状況など、これまでの経緯についてゆっくり話を聞くようにし、落ち着いてもらい、ご希望に添った次の段階の相談に繋げている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様、家族の皆様とも入所される前に会って話す場所を作り利用される方の希望に合うように出来るだけ受け入れる努力をしている。当施設での対応が困難な場合は、他施設、他サービスの紹介を行っている。		
28	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入所される前に、施設見学をして頂き再度家族の皆様と話し合いの場を設けて、本人様が慣れられるまでは、家族にも協力して頂きながら行っている。また体験利用も行っている。		現在、体験利用が日中のみなので、体験宿泊の利用を検討していきたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
29	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	共同生活の中で、本人様から色んな知識を教えていただきコミュニケーションで、喜怒哀楽を共にしている。		
30	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	年間行事がある場合は、必ず家族に連絡し、積極的に参加して頂き本人様と一緒に楽しく過ごして頂いている。		
31	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	これまでの本人様と家族の関係、本人様の状態を考慮し、家族との連絡を密に行っている。		
32	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	四季ごとのドライブや病院への受診、盆や正月に家に帰られたり、お礼状、年賀状を出すなどし、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援している。		
33	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	共同生活の中は勿論、レクリエーション、行事、体操を通じて支え合うように、席替えやテーブル配置に気を配り、利用者同士の関係が良好に保てるよう努めている。		
34	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	現時点では、継続的な関わりを必要とする利用者や家族はいないが、対象者には、電話相談や情報提供を行うようにしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
35	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所時、プラン更新時に、ご本人と家族へ生活への意向を尋ね、把握に努めている。	
36	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前に、ご本人、家族、又は入院先のソーシャルワーカー、他事業所のケアマネージャーと面会し、生活歴を把握し、本人らしい生活が送れるよう努めている。	
37	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日々の申し送りや会議や定例会を通じ、定期的に利用者の状態を再確認し、より適したサービスを提供するように工夫している。	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
38	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画作成、見直しの際は事前にスタッフ全員が集まり、意見を反映させている。電話等で家族の意見等の確認は行っているが会議の場に家族が参加できていない。	サービス担当者会議にご本人、家族に参加してもらえるよう体制を作っていきたい。
39	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期では月1回のモニタリングとプラン見直し、更新時に会議を行っている。入院等で大きく状態が変わった時は、臨時でサービス担当者会議を行い、新たに計画を立てるようにしている。	
40	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践、結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録にケアプランの項目を作り、ケアプランについての記録を見やすく工夫し、情報の共有、プランへの反映を行っている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	希望があれば、家族の宿泊、食事提供、入院時の洗濯、理容業者の受入れの支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
42	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域の方を招いてのしめ縄作りや消防署との協働による避難訓練の実施。保育園、小中学校、公民館への協力依頼に実施を行っている。また、久留米市からの定期的な訪問相談員の受入れを行い、情報の共有及び透明性に努めている。		
43	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	医療行為が必要となってきた利用者に対し、転所先を探す為、他事業所と調整を行っている。また、オムツ、福祉用具購入の支援を行っている。		訪問看護の利用に関して検討していきたい。
44	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に地域包括支援センターの職員に参加して頂き、ホームの実状を報告し、意見を求めている。		
45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前のかかりつけ医に継続して診て頂けるよう連絡調整し、かかりつけ医が遠方の場合や、希望があれば、連携医(往診)での定期受診の提案を行っている。		
46	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	数名の利用者は入所前からの認知症専門医に継続して診ていただいている。全員が専門医に診ていただいているが、主治医と連携し、認知度の把握に努めている。		認知症専門医についての情報収集し、必要に対応できるよう勤めたい。
47	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護職員が受診、服薬状況、健康状態の把握を行い、介護職員に指示、アドバイスをを行っている。又、緊急時には医療機関、医師との連絡調整を行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時には定期的に面会に行き、心身の状態の把握と病院関係者(医師、看護師、ソーシャルワーカー)からの情報収集に努め、入院者経過記録への記入を行っている。		
49	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入所時に看取りについての指針を説明し、身体状況の悪化した際は、本人、家族、医師と連携を取り、意向を全職員が周知できるようにしている。		
50	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	日頃より、医療機関、医師と連携をとり、重度化した場合、本人、家族の意向に添えるよう、GHでの看取りやHPへの紹介などを医師を含めて検討している。		
51	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	入所、転所の際は関係者が事前に、本人、家族の承諾を得てから、面会、情報収集に訪問したり、来所していただいている。		
<p>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>				
52	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	全体会議などで全職員に個人情報の取り扱い方やプライバシーを損ねるような言葉掛けや、対応の無いよう徹底指導している。		
53	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	希望や関心を見極め、生活の中で、衣類などの決定する時、入浴の時間帯など、利用者の意見や気持ちを出来る限り尊重している。		
54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床、就寝時間など、一人ひとりのペースに合わせ、出来る限り希望に添うよう取り組んでいる。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
55	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	1～2ヶ月に1回理容院に訪問してもらっている。男性は、毎朝髭剃りをし、女性は、洋服や装飾品を選び、整髪し身だしなみの支援を行っている。		
56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事摂取量の少ない方には献立以外に好みのものを提供している。また、一部の利用者様には、職員と一緒に準備、片付けを行っている。		
57	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	お茶以外にも好みに合わせ、コーヒー、清涼飲料水などの提供を行っている。また、喫煙希望者には、時間を決めて喫煙を行ってもらっている。希望があれば酒類の提供も行えるよう準備している。		
58	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表を活用し、誘導を行いトイレで気持ちよく排泄出来るよう支援している。		
59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	曜日や時間帯は出来る限り、利用者様の希望に添うようにしている。希望者には同姓介助を行っている。又、入浴剤を使用し、楽しみが持てるよう支援している。		二人介助を要する利用者様の入浴でも希望に添えるよう取り組んでいきたい。
60	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	利用者の排泄パターンを把握し、夜眠れない方には話し相手になりながら、安心して休んで頂けるよう支援している。又、希望される方には、午睡していただいている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	季節の行事、ドライブ、買い物等を通して、楽しみのある生活が送れるよう支援している。又、洗濯物干しや掃除を行っていただき、役割を見出せるよう支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
62	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員が金銭管理を行っているが、一緒に買い物に行く際は、レジでの支払いをしていただく機会を設けている。		
63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の希望時に散歩に行ったり、買い物と一緒にいき、外に出る機会を増やし、気分転換を図っている。		
64	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	ドライブやコスモス見学、初詣など利用者が希望する場所への外出支援を行っている。また、地域行事への参加支援も行っている。		
65	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が電話をかけたい時は希望に応じている。希望者には、年賀状などを書いて頂けるよう準備をしている。		
66	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	行事の際は事前に連絡を行い、希望される家族には参加していただいている。面会時間は決めておらず要望に応じ、柔軟な対応を行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
67	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行っておらず、危険防止の為ベット柵を使用する際は本人、家族の承諾を得、出来る限り拘束を行わないケアに取り組んでいる。		
68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者が自由に出入りできるように日中、玄関や門などの鍵はかけていない。		
69	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員の見守りを徹底している。夜間は1時間おきに巡視を行っている。又、入室の際はノックを行い、プライバシーへの配慮を行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	喫煙される利用者が1名いるため、タバコライターを職員で保管している。試用開始から火の始末まで常時付き添い、確認をしている。又、破損の恐れのある物品、危険となりうる調理器具を保管している。		
71	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ソファ、椅子は転倒しにくい安定した物を使用。また、疾患により特に転倒リスクの高い利用者には、移動時のヘッドギア装着を徹底している。誤訳が無いよう内服薬の袋等に利用者の名前、日付、時間を記入し、服薬確認を徹底している。		
72	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	半年に一度の消防訓練時、相貌書院や看護師の指導による、心肺蘇生やAED使用の訓練を行っている。		
73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	半年に一度、利用者、近隣住人を交えての消防署員の指導による消防避難訓練を実施している。		現在マニュアルがあるが、より詳細な対応を含めたマニュアルを作成したい。
74	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	家族等との話し合いの場を、入所時、退院時、または、定期的に設け起こりうるリスクの説明を充分にし、本人、家族の要望を考慮しながら、対応策を検討している。		
78				
75	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日、バイタル測定を行っている。表情や動作を観察し、異常の場合は医師や看護師に報告し、指示を仰いでいる。また、医療面のケース記録にて情報を共有している。		
76	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬に説明書にて、目的副作用を理解している。服用後の様子を記録し、看護時や医師の報告し、指示を仰いでいる。また、薬の事典を準備し、スタッフ全員が参考にし、理解を深められるようにしている。		
77	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	食物繊維を多く含む食材や、消化の良い食材を用いたメニューを考案し、牛乳や果物も定期的に提供している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、自力又は、介助で歯磨きを行っている。週に一度除菌洗浄剤を用いて義歯の清潔保持に努めている。又、異常時は歯科医の往診を行っていただくよう連携をとっている。		
79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日、ケース記録、熱計表に食事、水分摂取量を記入し、状態把握に努めている。また、食事制限の必要な方には、主食を計量し、正確に提供できるようにしている。		
80	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	利用者、職員共に外出後、食前の手洗い、うがいを徹底している。又、インフルエンザ流行時期には、外出時のマスク着用も徹底している。感染予防マニュアルに従い、実行している。		
81	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食器、調理器具などは、使用後乾燥機を使用している。特にまな板、包丁は必ず消毒を行っている。食材は新鮮な物を提供するのはもちろん、賞味期限には充分注意して調理している。		
82				
(1)居心地のよい環境づくり				
82	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関前には近所の方が栽培されて花を飾っている。庭には畑や花壇を設けていて、野菜作りやガーデニングを行って家庭的な雰囲気を味わえるようにしている。また、周囲の風景に違和感を与えないような外観といえる。		
83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレの扉が2段階になっており、排泄時の音がホール(食堂)に聞こえにくい作りとなっている。玄関、廊下、ほーるには利用者の行事写真や季節の花を飾るよう留意し、風透視、日当たりのいい空間となっている。		
84	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールには食事用テーブル、椅子を配置。1人掛けソファ、数人掛けソファも設置し、利用者が気軽にくつろいだり、歓談できるようにしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が以前使われていた家具、愛着のある装飾品、写真などを家族に持ってきていただき、使用している。		
86	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	ホールの天井が高く、シーリングファンを設置し、空気の流れを良くし、換気をこまめに行っている。室温や湿度は職員が常に注意を払い、常時調整している。居室は清潔保持する為、換気扇をこまめに使用している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
87	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の動線には物を置かず、安全へ配慮している。歩行の際は手摺を使用していただき、車椅子を使用される方も移動は出来るだけ、自ら行っていただけるよう配慮している。		
88	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	トイレや浴室は分りやすく表示し、居室には写真付きの表札を掛け、不安や混乱、失敗を招くような環境が最小限となるよう、職員で検討し取り組んでいる。		
89	建物の外周リや空間の活用 建物の外周リやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	季節感を味わっていただけるよう、庭に畑や花壇を設け、野菜作り、ガーデニングを楽しんでいただけるようにし、建物の外周リは散歩等に活用している。		

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
96	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		ほぼ毎日のように
			数日に1回程度
			たまに
			ほとんどない
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		大いに増えている
			少しずつ増えている
			あまり増えていない
			全くいない
100	職員は、生き活きと働けている		ほぼ全ての職員が
			職員の2/3くらいが
			職員の1/3くらいが
			ほとんどいない
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての家族等が
			家族等の2/3くらいが
			家族等の1/3くらいが
			ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

全ての利用者が1日に1回は、笑顔が見られるよう、積極的にコミュニケーションを取るよう心がけている。

職員間で何でも言い合える場、環境作りを常に意識して取り組んでいる。

報告、連絡、特に相談に関しては職員が消極的にならないよう、広く受け止めるよう心がけている。